

食料安全保障の強化と 持続可能な北海道畑作の 確立に向けて



はじめに

JAグループ北海道では、北海道畑作農業が産地としての使命を確実に果たしていくため、基本理念である「持続可能な畑作農業の確立」に向けて、畑作物の作付指標面積を設定しております。

令和8年産の作付指標の設定に向けては、作付指標の目的を改めて確認した中で、作物別に需給や情勢を踏まえた考え方で設定しました。

作付指標の目的

命題 持続可能な北海道農業の確立

- ①適正な輪作体系の確立
- ②需要動向を踏まえた計画生産
- ③各種農業諸制度の堅持

作付指標の考え方

- ・より合理的な輪作体系の構築により適正輪作の確立を図っていく。
 - ・食料安全保障強化に向けて国産化が求められている作物や北海道特有の品目の安定供給を維持していく。
- ①麦類・豆類：小麦や大豆は食料安全保障強化に向けた国産化が求められており、小豆・いんげんについては安定供給体制に向けた作付拡大が必要となっていることから、需給動向も加味したメッセージ性のある作付指標を設定する。
なお、春まき小麦については、令和7年産が播種時期の天候不順等の影響により大きく面積を減らしたことを踏まえ、作付意向面積をもとに令和8年産指標を設定する。
- ②馬鈴しょ：生食用・加工用については、「目指す方向性」に沿った作付意向が示されている一方、でん粉原料用については需要に見合った作付面積確保に向けた作付推進が必要なことなどから、引き続き「目指す方向性」に基づいた作付指標の設定を行う。
- ③てん菜：令和8砂糖年度に向けて、産糖量55万トン水準の作付を達成するための方向性を示していく観点で設定する。

令和8年産作付指標面積

(単位:ha)

		令和7年産 実績面積	令和8年産 作付指標面積
麦類	秋まき小麦	109,348	109,300
	春まき小麦	15,959	16,900
	大麦	1,761	1,800
豆類	普通大豆	39,740	39,700
	(うち小粒品種)	(7,580)	(7,400)
	黒大豆	2,611	3,000
	小豆(大納言含む)	21,157	22,100
	その他(菜豆類)	5,447	6,990
馬鈴しょ	生食用	12,070	12,600
	加工用	14,952	16,500
	でん粉原料用	13,487	15,800
	種子用	4,260	4,580
てん菜		47,965	50,000

※秋まき小麦は令和9年産の指標とする。 ※豆類の実績面積はホクレン調べ。
※馬鈴しょの作付指標は、「北海道産馬鈴しょの目指す方向性」(令和7年9月設定)の数字。

適正な輪作体系の確立と、食料安全保障の確立に資する安定供給体制の確保に向け、令和8年産の営農計画作成等の参考にさせていただきたく、品目別の需給やその他の情勢も含めご紹介いたします。

小麦



MESSAGE

- ・食料安全保障強化に資する小麦の国産化に向けては、供給量と品質における安定供給を継続することが最も重要です。
- ・需要に基づく生産と播種前契約の遵守を前提に、安定生産・安定品質に向けた取り組みを継続し、安定供給を維持していきましょう！

需給情勢

- ・令和8年産小麦においては、北海道の主力品種である「きたほなみ」は需給ギャップが縮小する一方、パン・中華めん用品種を中心に需給ギャップが拡大しております。
- ・また、入札取引においては、「きたほなみ」「ゆめちから」が基準価格を上回り全量落札となった一方、「春よ恋」「はるきらり」は不落札が発生するなど、銘柄ごとに差が生じていることが確認されました。
- ・小麦の作付については、農業経営の規模拡大や他作物の需給環境の変化等の影響から、近年面積が増加しており、令和7年産においては、春まき小麦の作付面積減少から小麦全体の面積は減少しましたが、秋まき小麦は増加傾向が続いています。

令和8年産小麦の需給 需要数量=購入希望数量、生産計画案=販売予定数量

(単位:トン)

銘柄	令和8年産				令和7年産(参考)	令和6年産(参考)
	需要数量 (A)	生産計画案 (B)	需給ギャップ (B)-(A)	乖離率 (B)/(A)	需給ギャップ	需給ギャップ
きたほなみ	457,005	464,444	7,439	101.6%	17,605	19,539
北見95号	485	259	▲ 226	53.4%	▲ 655	0
キタノカオリ	4,940	4,668	▲ 272	94.5%	▲ 2,503	▲ 2,362
ゆめちから	86,844	131,235	44,391	151.1%	31,003	28,598
つるさち	540	543	3	100.6%	10	▲ 83
ハルユタカ	3,509	2,999	▲ 510	85.5%	▲ 420	▲ 440
春よ恋	30,018	45,486	15,468	151.5%	16,670	14,408
はるきらり	1,500	4,412	2,912	294.1%	7,087	5,412
小麦合計	584,841	654,046	69,205	111.8%	68,797	65,072

※北海道民間流通地方連絡協議会資料より

小麦の国産化に向けて

- ・食料安全保障の強化に資する小麦の国産化に向けては、供給量・品質両面の安定供給により、海外産との置き換え・北海道産需要の定着を進めていくことが重要です。
- ・小麦の作付については、近年増加傾向となっておりますが、適正な輪作体系の中で安定供給を実現していくため、計画的な作付を行いつつ、基本技術の励行等により収量向上・品質の安定化を推進していきましょう。
- ・また、小麦全体の生産量が増加している中、輸送・保管体制の強化など生産規模に見合った流通体制を確立していくことも不可欠であるため、その実現に向けた検討を進めてまいります。

北海道産麦コンソーシアムの取り組み

- 道内の製粉企業3社とJAグループ北海道などによって令和3年度に立ち上げたコンソーシアムです。
- 北海道産麦の需要拡大を目指す「HOKKAIDO STAR プロジェクト」に継続して取り組んでおります。

令和7年の取組

- ・協同組合ネット北海道と連携し、カレーパンギネス世界記録に挑戦！
- ・あさひかわ菓子博への協賛、ブース出展
- ・ほっかいどう秋の大収穫祭でのブース展開
- ・製菓・調理専門学校等への出前授業の実施
- ・北海道産麦コンソーシアムの取組に係る広告展開
- ・ホームページの拡充による情報発信力の強化



馬鈴しょ



MESSAGE

- ・令和7年産の不作により各用途において供給量が不足しており、特に、馬鈴しょでん粉の供給が危機的な状況になっております。
- ・適正な輪作体系の確立や令和8年産の北海道産馬鈴しょの供給量の回復に向け、各産地においてできる限りの作付確保をお願いします。
- ・安定的な馬鈴しょ生産に向け、引き続きジャガイモシストセンチュウ類対策の徹底に取り組みましょう。

北海道産馬鈴しょの目指す方向性

- ・JAグループ北海道では、作付面積の減少が続く馬鈴しょについて、需要に対する安定供給と適正な輪作体系確保に向け、令和3年度に、馬鈴しょ作付の増加を目指す「道産馬鈴しょの目指す方向性」を設定しましたが、馬鈴しょ全体の作付は回復せず、目標を達成することができなかった経緯にあります。
- ・そうしたことから、あらためて、道産馬鈴しょの安定供給と適正な輪作体系の確立に向け、馬鈴しょ全体における作付拡大を目指し、令和12年産を目標年とする「目指す方向性」の再設定を行いました。

(単位:ha)

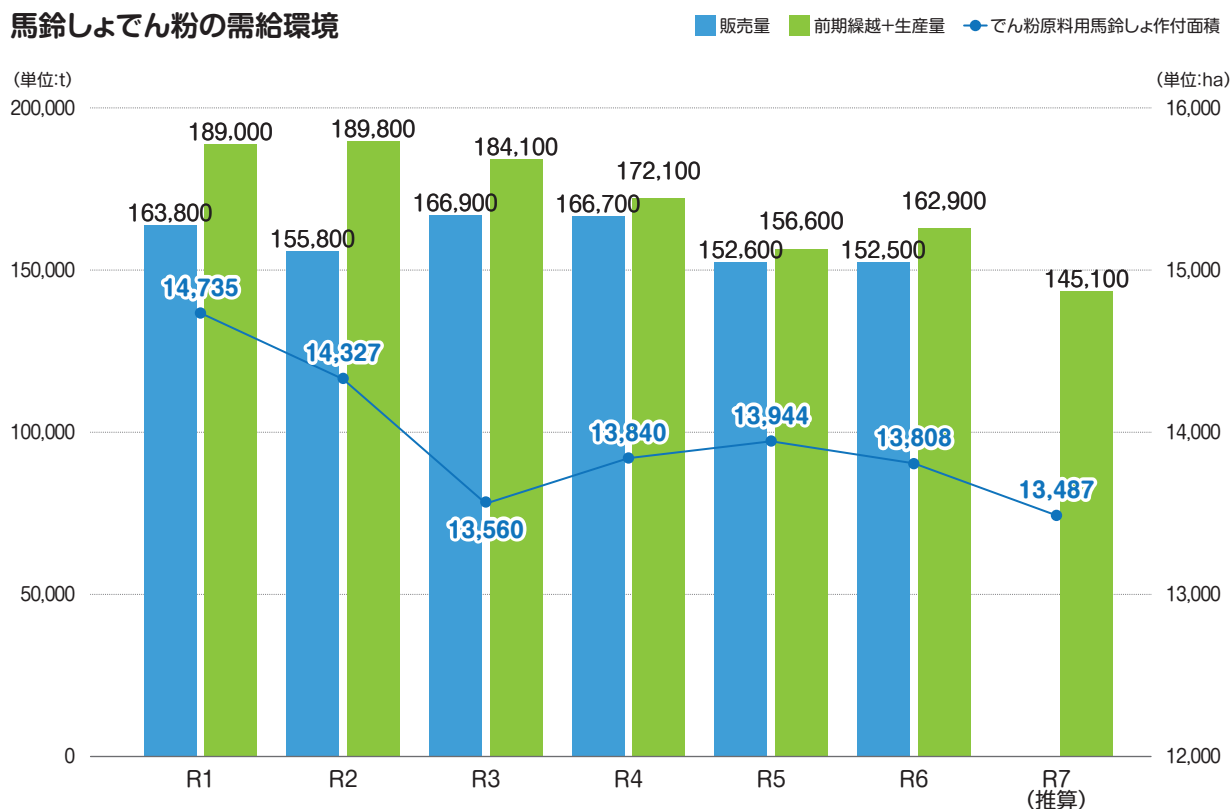
品種	目指す方向性 (概ねR7年産)	R5年産 作付実績	R6年産 作付実績	R7年産 作付実績	目指す方向性 (R8～12年産)
生食用	13,000	12,769	12,757	12,070	12,600
加工用	16,200	14,625	15,370	14,952	16,500
でん粉原料用	14,700	13,944	13,808	13,487	15,800
種子用	4,800	4,463	4,336	4,260	4,580
合計	48,700	45,801	45,171	44,769	49,480

需給情勢

- ・馬鈴しょの作付面積が長期的に減少し、近年では北海道産馬鈴しょでん粉において需要に対する供給が追い付かない状況になるなど、安定的な北海道産馬鈴しょの供給が危ぶまれる状況となっております。
- ・令和7年産は、6月中旬以降の高温・干ばつの影響を大きく受け、小玉傾向、収量の激減、ライマン価の低下もあり、各用途で供給が大きく不足する事態となっております。
- ・特に、馬鈴しょでん粉においては、令和7でん粉年度の繰越量・生産量を合わせた期首供給量が**145.1千トン**（前年度差△18.3千トン）の見通しで、令和6でん粉年度の販売量を下回る水準となっており、安定供給に向けた生産拡大が必須急務な状況となっております。



馬鈴しょでん粉の需給環境



令和8年産の作付に向けて

- ・種馬鈴しょについても不作により供給量が減少しており、種子の確保が懸念されますが、国産馬鈴しょ需要に対する安定供給の継続や、適正な輪作体系の確立の観点から、馬鈴しょの作付拡大が急務となっておりますので、令和12年を目標年とする目指す方向性の実現に向けて作付の確保をお願いします。
- ・特に、食料安全保障の強化に資する北海道産馬鈴しょでん粉の安定的な供給を行っていく観点から、でん粉原料用馬鈴しょについては、令和7年産以上の面積の確保に向けて作付をお願いします。

ジャガイモシストセンチュウ類の密度低減、まん延防止

馬鈴しょの生産性向上等に向けては、北海道全体でシストセンチュウ類のまん延防止、防除を徹底していくことが重要です。また、馬鈴しょ振興に向けた種馬鈴しょ確保対策の一環として、ジャガイモシストセンチュウ発生圃場における種馬鈴しょ生産に係るルール（“復活ルール”）の検討が進められていますが、その協議においても、道の基本方針に基づき「みなし未発生圃場」となる圃場を増やしていくことが前提となります。

種子馬鈴しょの確保に向けて

安定的な馬鈴しょ生産に向けては、健全・良質な種子を計画的に確保していくことが欠かせません。近年、気候変動の影響もあり、原原種の萌芽不良問題など種子馬鈴しょ確保に向けた課題が拡大していることから、安定生産に向けた早期の対策について、関係機関とも協議していきます。

てん菜

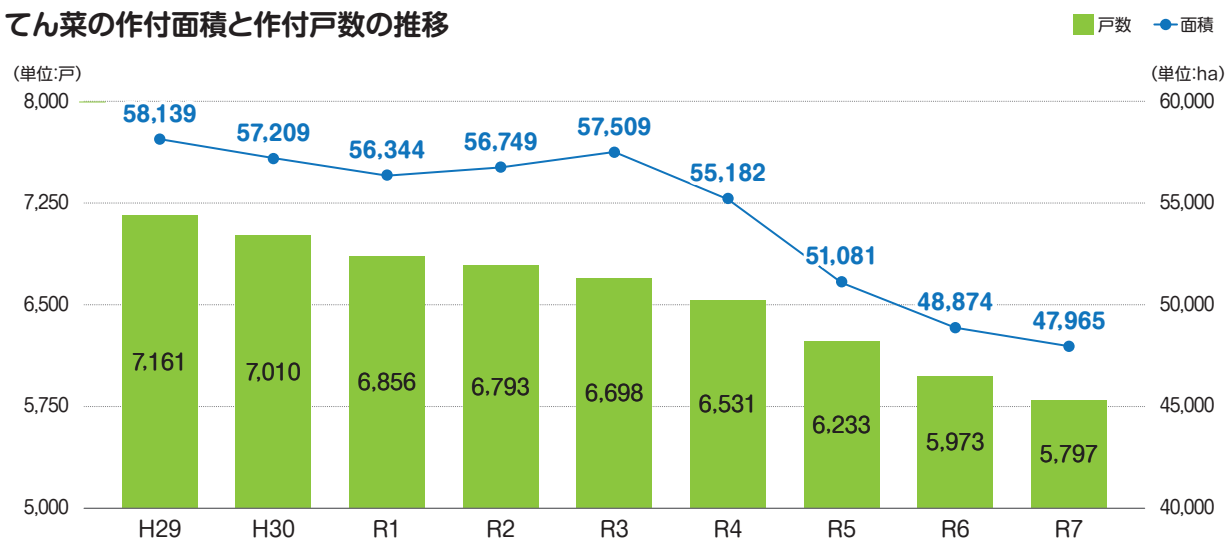
MESSAGE

- ・てん菜作付面積のこれ以上の減少は、てん菜の生産基盤の維持や製糖工場の運営に大きな影響を及ぼします。
- ・令和9砂糖年度以降の交付対象数量が、55万トンで維持されることが決定されました。このことから、令和9年産以降の安定的な生産の確保に向けて、令和8年産てん菜の作付確保をお願いします。

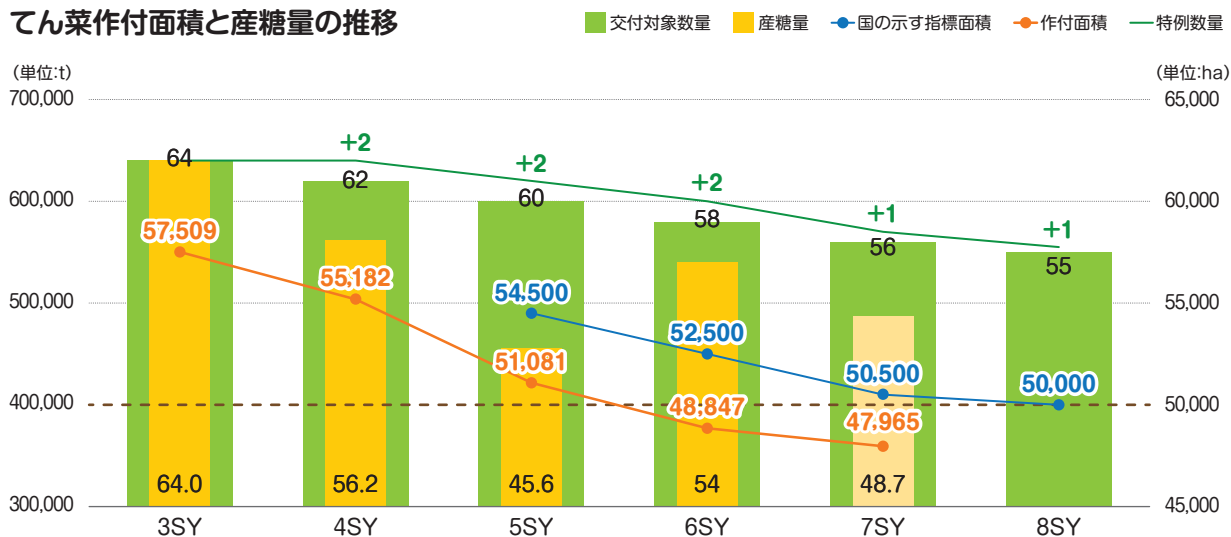
てん菜の生産状況

- ・令和7年産原料てん菜の作付面積については、前年比▲882haの47,965haとなり、減少幅は過去2年より小さくなったものの、作付面積の減少が続いている状況です。
- ・令和7年産てん菜は概ね順調な生育ではあったものの、初期生育の遅れや一部で発生した干ばつの影響などにより収量は平年を若干下回る66.6t/ha、糖分は夏場の高温により平年を下回る15.6%となりました。産糖量は487千t（12月農水省公表値）と見込まれています。

てん菜の作付面積と作付戸数の推移



てん菜作付面積と産糖量の推移



農林水産省資料を基にJA北海道中央会作成

令和9砂糖年度以降のてん菜糖の交付対象数量等について（令和7年12月決定）

- ・てん菜糖のうち、交付金の対象となる数量及びその原料となるてん菜の支援規模（交付対象数量）に関して、未定だった**令和8砂糖年度における特例数量は、56万トン（55万トン+1万トン、砂糖ベース）**とされました。
- ・また、**令和9砂糖年度以降の交付対象数量は55万トン**となりました。
- ※ただし、「糖価調整制度の安定的な運営に支障が生ずる場合には、持続的なてん菜生産及び糖価調整制度の運営が可能な水準の交付対象数量となるよう、見直しを行う」こととされました。

令和8年産の作付に向けて

- ・令和8年産のてん菜作付指標については、下記の考え方で設定・推進します。

令和8年産作付指標

輪作体系の再構築や製糖工場の運営など、てん菜生産基盤の維持の観点から
全道 50,000haで設定します。

作付指標推進の考え方

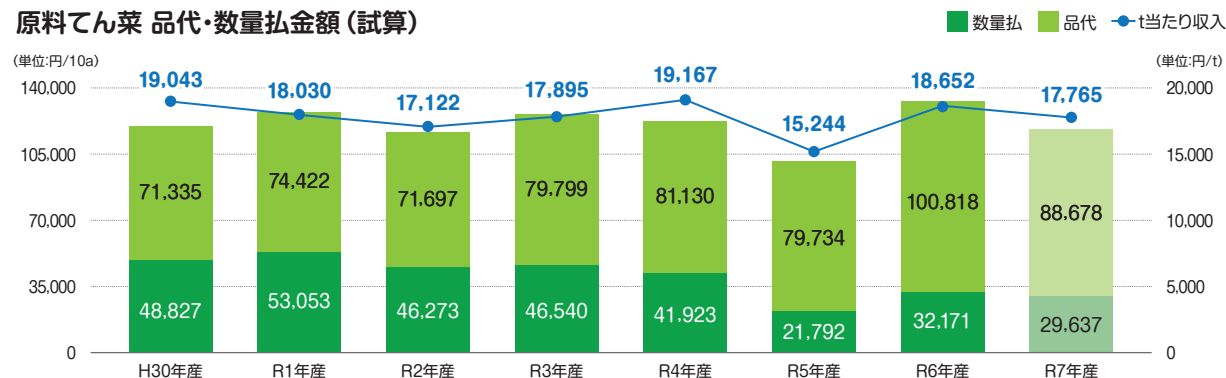
各JAにおいて、てん菜生産基盤の維持の観点から、作付指標面積の確保に向けて努める。

- ・これ以上の作付面積の減少は、てん菜の生産基盤の維持に関わる問題であり、輪作体系の棄損や糖業経営・工場運営に大きな影響を与えます。
- ・以上を踏まえ、**令和8年産の作付指標面積の確保に向けて作付をお願いします。**なお、各JAの指標面積については目標値の位置づけであり、指標面積に対する未達や超過といった評価は行いません。

<参考>てん菜の収益性

近年の品代の上昇や令和8年度からのゲタ対策における基準糖度の見直しもあり、平年作を確保すれば一定の収入が確保できる見込みです。

原料てん菜 品代・数量払金額（試算）



	平成30年産	令和1年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産	令和7年産
単収 (t/10a)	6.31	7.07	6.89	7.06	6.42	6.66	7.13	6.66
糖分 (%)	17.2	16.8	16.4	16.2	16.1	13.7	15.7	15.6
交付対象比率	1.000	0.967	1.00000	1.00000	1.00000	1.00000	1.00000	1.00000
10a当	数量払 (円/10a)	48,827	53,053	46,273	46,540	41,923	21,792	32,171
	品代 (円/10a)	71,335	74,422	71,697	79,799	81,130	79,734	100,818
	合計 (円/10a)	120,162	127,475	117,970	126,339	123,053	101,526	132,989
t当たり収入 (円/t)	19,043	18,030	17,122	17,895	19,167	15,244	18,652	17,765

※7年産の収入は見込み。 ※5～7年産については課税事業者向けの数量払単価で計算。

大豆

MESSAGE

・主産地である北海道として、大豆の安定供給に向けた生産のため、引き続き需要に応じた計画的な作付を行いましょう。

需給情勢

・大豆については、近年府県産の供給が不安定化するなか、安定供給を続ける北海道産の評価は高まっていますが、生産量の拡大が需要量の拡大を上回る傾向となっており、需給は緩和しています。

令和8年産の作付に向けて

・現状の需給状況を踏まえ、普通大豆については、昨年水準（**39,700ha**）の作付面積確保に向けた計画的な作付と安定生産により、安定供給体制の維持を目指しましょう。

・黒大豆については、令和7年産の作付が指標を下回る2,611haに留まったことから、供給量の増加に向けて作付を確保しましょう。

・大豆については近年の生産拡大に合わせて需要の拡大が図られていますが、海外産大豆との競合もあり、更なる国産大豆の需要拡大・定着を図っていく必要があります。そのためには、安定的な生産体制、保管体制・円滑な流通体制を構築し、海外産大豆との置き換えを進めていくことが重要ですので、そのために必要な対策についても検討を進めてまいります。

小豆

MESSAGE

・安定供給に向けた作付面積を確保する観点から、**22,100ha**の作付を目指して作付の確保をお願いします。

需給情勢

・令和6年産小豆の消費については、5年産と比較して供給量が確保され実需へ確実に流通したことや、土産物需要や大手メーカーにおける堅調な販売を要因とし、前年比**105%**と増加しました。

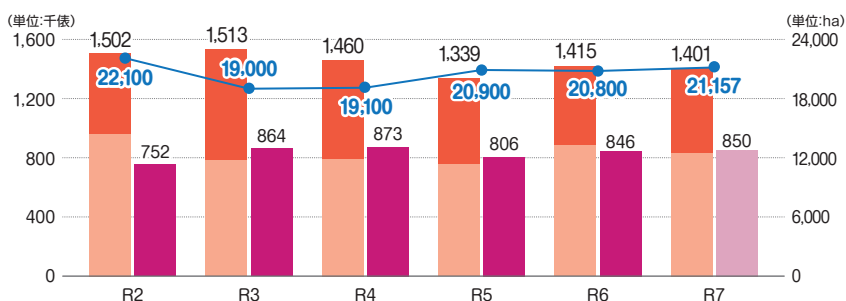
・令和7年産小豆については、指標面積確保に向けた推進の結果、前年を**357ha**上回る**21,157ha**となりました。作柄については、高温干ばつ等の影響で平年を下回る水準となっており、価格については海外産小豆との価格差が拡大している状況です。

令和8年産の作付に向けて

・北海道産小豆の供給量回復により、年間消費も着実に増えてきており、更なる北海道産小豆の需要の拡大と定着を図るには、引き続き十分な作付面積の確保を通じた安定供給を行っていくことが必須です。

・北海道産小豆の目指す姿の実現に向けて、昨年に引き続き作付指標面積である**22,100ha**の確保に向けて作付をお願いします。

北海道産小豆の作付面積と需給



※令和7年産の消費量の数字については、目標値。

北海道産小豆の目指す姿 期首供給量…140万俵 年間消費量…90万俵 期末繰越…50万俵

菜豆類

MESSAGE

・菜豆類については、北海道産が国内需要に対する供給を支えています。

・北海道産豆類の安定供給に向け、増反をお願いします！

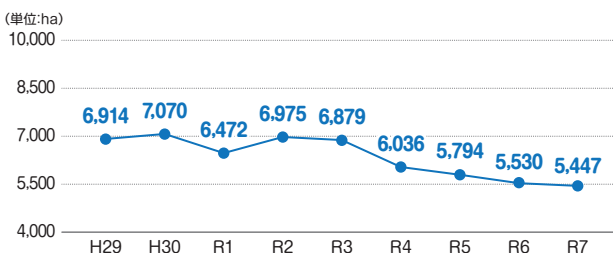
需給情勢

・菜豆類は、和菓子や煮豆など、日本の食文化を支える重要な品目であり、その供給は北海道が支えています。

・一方、菜豆類の作付は、令和7年産で前年対比**▲83ha**と減少傾向に歯止めがかかっておらず、このまま作付の減少が続くと、豆類の供給基盤が損なわれる懸念があります。

・菜豆類の安定供給のため、作付指標面積の確保に向けて作付をお願いします！

北海道における菜豆類の作付推移



※JA北海道中央会調べ